

幼木期における「させぼ温州」の適正施肥量						
[要約] 幼木期における「させぼ温州」には施肥量を増肥しても主幹径，樹容積，葉数は変わらず， <u>県基準施肥量</u> で十分である。						
長崎県果樹試験場・施肥改善科	専門	土壌肥料	対象	果樹類	分類	指導
平成13年度長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

結果母枝が短く，着花性が良い「させぼ温州」は幼木期の樹幹拡大を急ぐあまり施肥量を増肥する傾向がある。過剰な窒素施用は樹体への悪影響も懸念されることから適正な施用量を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- ①窒素施用量を増肥しても主幹径，樹容積，葉数には影響がなかった。
- ②葉中窒素含有率は処理当初には施肥量の影響が明らかではなかったもののその後は施用量の増加に伴い高くなった。含有率は温州ミカンの適正範囲であった。

[成果の活用面・留意点]

- ①「させぼ温州」の適正施肥管理に利用できる。
- ②結実率等への影響は不明である。

[具体的データ]

表1 窒素施用量と生育 (mm, 枚/樹, m³, %)

区分	処理区	主幹径 伸び率		葉数 伸び率		樹容積 伸び率	
H11年4月	標準施肥区	33.8	426	2,585	521	5.0	312
1年生苗	3割増肥区	31.0	383	2,250	395	3.4	274
定植	6割増肥区	32.0	379	2,483	485	4.1	301
有意性		NS	NS	NS	NS	NS	NS
H11年4月	標準施肥区	37.1	317	2,857	570	4.2	297
2年生苗	3割増肥区	37.1	289	2,924	385	4.4	218
定植	6割増肥区	33.5	277	3,511	497	4.8	245
有意性		NS	NS	NS	NS	NS	NS

注) 生育量は平成13年12月に測定した。伸び率は定植当初対比である。

表2 葉中窒素含有率 (%)

区分	処理区	12年6月	9月	12月	14年4月
H11年4月	標準施肥区	3.27	2.91	3.65	2.97
1年生苗	3割増肥区	3.30	2.95	3.69	3.08
定植	6割増肥区	3.35	2.96	3.62	3.16
H11年4月	標準施肥区	3.51	3.01	3.67	3.08
2年生苗	3割増肥区	3.38	3.19	3.70	3.13
定植	6割増肥区	3.40	2.96	3.52	3.31

【参考】

年間窒素施用量 (早生温州)

1年生	3.0kg/10a
2年生	4.5kg/10a
3年生	6.5kg/10a
4年生	8.0kg/10a

[その他]

研究課題名: させぼ温州の早期樹冠拡大と高品質安定生産多収技術

予算区分: 県単

研究期間: 平成13年度 (平成12~平成15年)

研究担当者: 後田経雄・井手勉・種川淳子

既発表論文等: なし